

説明的な文章を「正確に理解」する資質・能力の育成
～「情報の扱い方」を関連させた「読むこと」の指導を通して～

与那原町立与那原東小学校教諭 仲本美由紀

I テーマ設定の理由

今の子供たちが成人して活躍する頃には、生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、技術革新等により、社会構造や雇用環境が大きく急速に変化することが予想されている。このような状況にあって学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値へつなげていけるようにすることが求められている。これを受け、平成29年告示学習指導要領では、国語科の目標として「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育成するとして、未知の状況にも対応できる力を一人一人の児童に育むことを目指している。

しかし、全国学力・学習状況調査児童質問紙調査の結果から本校の状況を見ると、「調査問題の解答時間は十分でしたか」の設問に否定的な回答をするなど、文章を読み解けていない児童がいることがわかった。そのため、文章で表された情報を正確に理解することや、それを自分の考えに生かしていけるようにする授業改善が課題となっている。

このことについて、今回の改訂では、「読むこと」の領域で育成する「思考力・判断力・表現力」と、話や文章に含まれている情報を扱う「知識・技能」を関連させて指導することが国語科で目指す資質・能力の育成につながるとして、内容の〔知識及び技能〕に「情報の扱い方に関する事項」が新設された。

そこで、本研究では、「読むこと」の指導に「情報の扱い方に関する指導」を関連させ、説明的な文章に含まれる情報を取り出して整理したり、情報の関係を捉えたりすれば、説明的な文章を「正確に理解」する資質・能力の育成を育成できると考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

「読むこと」の指導に「情報の扱い方」の指導を関連させ、情報を整理しながら文章の内容を理解したり自分の考えを表現したりする活動を行うことで、説明的な文章を「正確に理解」する資質・能力を育むことができるであろう。

2 検証計画

検証計画は以下の通りとする。

検証授業の対象：与那原東小学校 3年2組〔男子14名 女子16名 計30名〕		主な検証方法														
1 事前調査	○既習テストの結果を分析（11月） ○国語に関する事前アンケート（12月）	・事前アンケートの分析 ・諸調査の分析														
2 検証授業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>検証の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・第1時（1/11） 1校時</td> <td rowspan="11">(1)情報を表に整理してその関係を捉えながら読むことができたか。 (2)表に整理した情報を基に、理由と関係を明確にしたオリジナル説明文を書くことができたか。</td> </tr> <tr> <td>・第2時（1/15） 1校時</td> </tr> <tr> <td>・第3時（1/16） 4校時</td> </tr> <tr> <td>・第4時（1/17） 3校時</td> </tr> <tr> <td>・第5時（1/18） 1校時</td> </tr> <tr> <td>・第6時（1/21） 1校時</td> </tr> <tr> <td>・第7時（1/22） 5校時</td> </tr> <tr> <td>・第8時（1/23） 5校時</td> </tr> <tr> <td>・第9時（1/24） 5校時</td> </tr> <tr> <td>・第10時（1/25） 1校時</td> </tr> <tr> <td>・第11時（1/28） 1校時</td> </tr> </tbody> </table>	日程	検証の観点	・第1時（1/11） 1校時	(1)情報を表に整理してその関係を捉えながら読むことができたか。 (2)表に整理した情報を基に、理由と関係を明確にしたオリジナル説明文を書くことができたか。	・第2時（1/15） 1校時	・第3時（1/16） 4校時	・第4時（1/17） 3校時	・第5時（1/18） 1校時	・第6時（1/21） 1校時	・第7時（1/22） 5校時	・第8時（1/23） 5校時	・第9時（1/24） 5校時	・第10時（1/25） 1校時	・第11時（1/28） 1校時	・授業観察（発言、態度等） ・対話的活動 ・ワークシート ・ノート （思考したことの記述・ふり返り） ・授業記録（写真、ビデオ等）
日程	検証の観点															
・第1時（1/11） 1校時	(1)情報を表に整理してその関係を捉えながら読むことができたか。 (2)表に整理した情報を基に、理由と関係を明確にしたオリジナル説明文を書くことができたか。															
・第2時（1/15） 1校時																
・第3時（1/16） 4校時																
・第4時（1/17） 3校時																
・第5時（1/18） 1校時																
・第6時（1/21） 1校時																
・第7時（1/22） 5校時																
・第8時（1/23） 5校時																
・第9時（1/24） 5校時																
・第10時（1/25） 1校時																
・第11時（1/28） 1校時																
3 事後調査	○事後アンケート（1月） ○単元テスト・振り返りシート（1月）	・事後アンケートの分析 ・授業記録、児童の感想等の分析														
4 まとめ	○「情報の扱い方」を組み合わせた「読むこと」の指導を通して、説明的な文章における筋道を立てて読む力を育成することができたか。	・アンケートの比較・分析、結果のまとめ、考察														

Ⅲ 研究内容

1 国語科で育成を目指す資質・能力

(1) 国語科の目標と内容の構成

表1は、平成29年告示学習指導要領で示された国語科の目標である。国語科で育成を目指す資質・能力は、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と示されるとともに、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理された。

また、育成を目指す資質・能力が三つの柱で整理されたことに従って、国語科の内容についても〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕で構成された。表2は国語科の内容の構成である。

〔知識及び技能〕は国語で正確に理解し適切に表現するために必要な「知識及び技能」が示され、〔思考力、判断力、表現力等〕は「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」の三領域で構成されている。この内容の指導について、「国語で理解したり表現したりする様々な場面の中で生きて働く『知識及び技能』として身に付けるために、思考・判断し表現することを通じて育成を図ることが求められるなど、『知識及び技能』と『思考力、判断力、表現力等』は、相互に関連し合いながら育成される必要がある」と示されている。そして、このような資質・能力を育成するためには、児童が「言葉による見方・考え方を働かせることが必要である」と示されている。

(2) 言葉による見方・考え方を働かせるとは

国語科の目標では、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」について「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して」育成することを目指すことと示されている。このことについて、平成29年告示学習指導要領解説国語編（以下「解説国語編」と表す）では、言葉による見方・考え方を働かせるとは、「児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方に着目して捉えたり問い直したり」することとされ、言語活動を通して、「『言葉による見方・考え方』を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながる」と述べられている。

2 「情報の扱い方」を関連させた「読むこと」の指導について

(1) 「読むこと」の指導について

「読むこと」の指導事項の内容(1)は、学習過程に沿って、表3のように構成されている。「構造と内容の把握」は叙述を基に文章の構成や展開を捉えたり内容を理解したりすること、「精査・解釈」は構成や叙述に基づいて文章の内容や形式について精査・解釈すること、「考えの形成」は文章を読んで理解したことなどに基づいて自分の考えを形成すること、「共有」は文章を読んで感じたことや考えたことを共有し自分の考えを広げることである。表4は、説明的な文章についての「読むこと」の指導事項をまとめたものである。

表1 小学校国語の教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

表2 内容の構成

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2) 情報の扱い方に関する事項
- (3) 我が国の言語文化に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕

- A 話すこと・聞くこと
- B 書くこと
- C 読むこと

表3 「読むこと」の指導事項

内容(1)

- 構造と内容の把握
- 精査・解釈
- 考えの形成
- 共有

表4 「読むこと」の指導事項（説明的な文章の指導事項を抜粋）

	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
	(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
構造と内容の把握	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。	ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。	ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を押さえて要旨を把握すること。
精査・解釈	ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。	ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。	ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。
考えの形成	オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
共有	カ 文章を読んで感じたことや分かっていたことを共有すること。	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

第3学年の「読むこと」の学習では、段落相互の関係に着目しながら文章の構造や内容を捉えること、目的を意識して必要な情報を見付け要約すること、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをもつこと、考えを共有して感じ方の違いに気付くことなどについて指導する。

(2) 「情報の扱い方」に関する指導について

解説国語編では、「話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすることが、話や文章を正確に理解することにつながり、また、自分のもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現することにつながる」とされ、情報の扱い方に関する「知識及び技能」を国語科で指導すべき重要な資質・能力とした(表2)。

この事項は、ア「情報と情報との関係」とイ「情報の整理」の二つの内容から構成されている(表5)。どちらも〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の指導事項と関連させて扱うこととされている。

表5 情報の扱い方に関する事項

	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
	(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
情報と情報との関係	ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などに情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
情報の整理		イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し使うこと。	イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

(3) 「情報と情報との関係」「情報の整理」と「読むこと」を関連させた指導について

① 「情報と情報との関係」と関連させた指導

「情報と情報との関係」について国語解説編には、「各領域における『思考力・判断力・表現力等』を育成する上では、話や文章に含まれている情報と情報との関係を捉えて理解したり、自分のもつ情報と情報との関係を明確にして話や文章で表現したりすることが重要になる」とされている。

例えば、第3学年及び第4学年では「ア 考えとそれを支える理由や事例」が挙げられている。それについて水戸部(2017)は、「意見や主張など考えは、具体的な事例を示したり、理由を述べたりすることによって、相手に伝わりやすいものとなる。逆に、文章を読んだり話を聞いたりする際には、考えの部分とそれを支える理由や事例の部分に気を付けて読んだり聞いたりすることで、相手の主張を深く理解したり、慎重に検討したりできる」と述べている。

そこで、本研究では、第3学年の児童に「考えとそれを支える理由や事例」の関係を捉えさせ

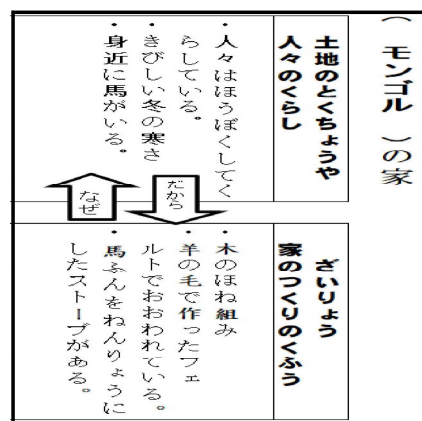
るため、まず、文章から「考え」を示す段落や「事例」を示す段落を見つけさせる。そして、事例は考えをより具体的に説明するために挙げられた事柄や内容であることや、考えと事例をつなげて読むと文章は理解しやすいことを捉えることができるよう指導を行う。

② 「情報の整理」と関連させた指導について

解説国語編において「情報の整理」は、「情報を取り出し活用したりする際に行う整理の仕方やそのための具体的な手段」として示された。

村田（2018）は「情報の整理」について、「収集した情報を比較や分類、関係づけなどの整理の仕方の指導で、図や表を効果的に活用して、整理できるようにしていくことが必要である」と述べている。

本研究では、文章や写真などに表されたことを読み取り、それぞれがどのような点について説明しているのかを考えて、図や表に整理することができるよう指導を行う（資料1）。



資料1 図に整理する活動

その後、整理した図をもとに、理由を表す言葉を用いて、読み取った情報を関連付けて説明する活動を行う。そうすることで、筆者の説明していることを確かめることができ、文章を理解することができるようになる。児童がそのよさを実感することで、図や表に整理する知識及び技能を自ら活用していくことにつなげたい。

(4) 表に整理する読み方について

白石（2015）は、「説明文を表にして読むことは、内容を整理して、述べられている内容を関係づけて論理的に読むことにつながる」と述べている。そこで、表をつくる活動において子どもの思考を活発にするため、次のような工夫を行う。まず、横軸の項目は、説明文の中で具体例として挙げられていることを見つけさせる。どんなことが比較されているかを読み取り、その比較を表の横軸の項目として入れていけるようにする。そして、縦軸の項目は、横軸の項目に共通に説明されている内容を縦軸の項目と考えさせていく。それぞれの横軸に共通している説明内容を見つけ、それを短い言葉で表現させるようにする。

資料2 表にまとめる活動を行った際の板書（第6時）

さらに、白石は、「表を完成させた後、大事にしなければならないのが、『表を読む』学習である。この活動は、表の中の縦軸を読む活動である」と述べている。本研究では、縦に見ると事例を読むことができ、横に見ると共通点が見え、それを筆者の考えとつなげて読むと、筆者の説明していることがわかりやすくなることに気づかせたい（資料2）。

(5) 絵図・写真と関連づけた読み方について

国語解説編には、教材についての留意点として、「説明的な文章については、適宜、図表や写真などを含むものを取り上げること」が示されている。本研究で扱う教材にも絵図や写真がある。そして、絵図には短い言葉で書かれた説明が加えられており、それら断片的な情報が互いに内容を補完し合っている。本研究でも、文章、絵図・写真のそれぞれの情報を結び付けて読むことができるよう工夫したい。

IV 検証授業

- 1 単元名 「家のつくりの工夫を考えよう」
- 2 教材名 「人をつつむ形－世界の家めぐり－」（東京書籍3年）
- 3 単元設定の理由

(1) 教材観

本教材は、世界にある特徴的な家を写真や絵とともに紹介している文章である。世界にはいろいろな家があるが、「どの家も、その土地の特徴や人々の暮らしに合わせて、地元にある材料を使い、工夫してつくられている」という筆者の考えが根底として書かれている。まず、導入部分において、二つの国の家のつくりを例にして、筆者の考えを明らかにしている。その導入部分に続く形で、三つの国の家のつくりについて具体例が挙げられている。それぞれ、文章での説明に加えて写真や絵図などでも解説しており、文章と資料を補い合ったり関連づけたりして読み取ることができる構成になっている。このような教材の特徴から、筆者の説明の観点である「土地の特徴」、「人々の暮らし」、「地元にある材料」、「家のつくりの工夫」に関する言葉を文章や絵・写真などから読み取り、図や表にまとめる学習に適した教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、今年度、「自然のかくし絵」「『ほけんだより』を読みくらべよう」において、段落の内容を捉えて読むことや、図や表や文章を結び付けて読むこと等を学習している。しかし、レディネステストの結果から、段落の内容を捉えることが不十分な児童が9名、図や表や文章を結び付けて読むことが不十分な児童が8名いることがわかった。このことから、文章を正確に理解するために、観点を明確にして情報を整理する知識・技能を身に付けることが重要と考える。

(3) 指導観

本単元の第一次では、教科書のとびらの写真や題名などから世界の家のつくりに興味を持たせ、「世界の家はどんなつくりなのか」、「筆者はどんなことを伝えたいのか」という学習課題をつかませ、説明的な文章を読み進めることへの目的意識や意欲を高める。第二次では、「どの家も、その土地の特徴や人々の暮らしに合わせて、地元にある材料を使い、工夫してつくられている」という筆者の考えを確かめ、その考えをもとに、各国の事例から家のつくりについて読み取る。その際、文章、写真や絵、脚注などに表現された情報を、筆者の説明の観点である「土地の特徴」、「人々の暮らし」、「地元にある材料」、「家のつくりの工夫」に分類して図に整理させる。図に整理することで、筆者の説明していることをよりはっきり読み取ることができることに気づかせたい。その後、整理した図を用いて分類した情報を関連づけ、読みとったことをまとめる文章を書く。第三次では、第二次の学習を生かして、日本の家のつくりについて、自分の考えを書くことができるようにする。ここでは、家について詳しく調べて知識を得ることがねらいではなく、情報を整理して自分の考えを広げることがねらいである。そのため、日本の家のつくりについての情報は、教材文中の情報を活用したり、教師が適宜補ったりして、家のつくりの工夫とその理由について考える手助けをする。これらの指導を通して、「正確に理解」する資質・能力の育成を目指す。

4 単元の指導目標

(1) 単元の目標

○世界の家のつくりに興味を持ち、学習課題をつかんで読むことができる。

【国語への関心・意欲・態度】

◎筆者の考えとそれを支える理由や事例の関係に着目しながら、家のつくりの工夫に関する語や文を捉えて読むことができる。

【読むことア】

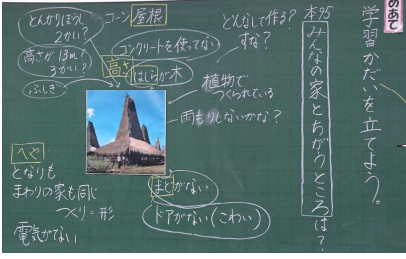
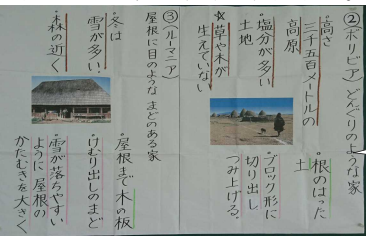
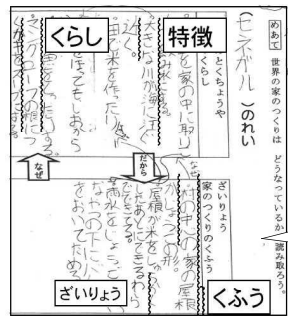

○いろいろな家のつくりについての自分の考えを、理由を挙げて書き表すことができる。

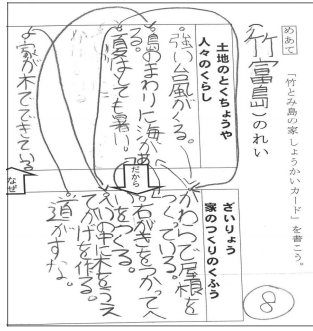

【書くことウ】

(2) 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	書く能力
<p>・世界の家のつくりに興味を持ち、家のつくりの工夫の理由や筆者の伝えたいことを捉えようと、進んで教材文を読むことができる。</p>	<p>・筆者の考えと事例など段落相互の関係に着目しながら、いろいろな国の家のつくりの工夫に関する語や文を捉えて読むことができる。(イ)</p>	<p>・家のつくりについて自分の考えを伝えるために、家のつくりに関する情報を理由を表す言葉で関係づけて書くことができる。(ウ)</p>

(3) 単元の指導・評価 (全11時間)

次 時	学習活動	評価規準 (評価の方法)
一次 1	<p>■世界の家のつくりに興味を持ち、学習課題をつかむことができる。</p> <p>①教科書とびらの写真や題名等から、世界の家のつくりに興味を持つ。</p> <p>②題名から問いを持つ。</p> <p>③学習課題をまとめる。</p> <p>単元の学習課題</p> <p>①世界の家はどんなつくりかな？</p> <p>②筆者はどんなことを伝えたいのかな？</p> 	<p>関 世界の家のつくりに興味を持ち、課題をつかむことができる。(発言・感想)</p> <p>とびらの写真から気づきを発散させ、学習課題に集約する。</p>
二 2	<p>■世界の家のつくりについて、筆者の説明の観点を読み取ることができる。</p> <p>①形式段落に番号をつける。</p> <p>②「外国の家のつくり」と「筆者の考え」を探しながら、前半部を音読する。</p> <p>③ボリビア、ルーマニアの家のつくりに関する言葉を模造紙に書きだして色分けする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地の特徴 (茶色) ・人々の暮らし (水色) ・地元の材料 (緑色) ・つくりの工夫 (ピンク色) <p>④ボリビア、ルーマニアの家のつくりと、筆者の考えとの関係を探る。</p> 	<p>読 段落相互の関係に気をつけながら、家のつくりについての筆者の考えを読み取っている。(発言・ノート)</p> <p>家のつくりの工夫に関する言葉や文を書き出し、同じ事柄同士をまとめることで、筆者の説明の観点を読み取る。</p>
二 3	<p>■モンゴルの家のつくりについて、筆者の説明の観点に沿って整理することができる。</p> <p>①モンゴルの家のつくりの工夫について、文章や写真・絵から読み取る。</p> <p>②モンゴルの家のつくりに関する言葉を、筆者の説明の観点に沿って図に整理する。</p> <p>③まとめた図をもとに、理由を表す言葉を用いて、読み取ったことを関連付けて説明する。</p>	<p>読 モンゴルの家のつくりについて文章や絵などから読み取った情報を、筆者の説明の観点をもとに整理することができる。(ワークシート)</p>
二 4	<p>■チュニジアの家のつくりについて、筆者の説明の観点に沿って整理することができる。</p> <p>①チュニジアの家のつくりの工夫について、文章や写真・絵から読み取る。</p> <p>②チュニジアの家のつくりに関する言葉を、筆者の説明の観点に沿って図に整理する。</p> <p>③まとめた図をもとに、理由を表す言葉を用いて、読み取ったことを関連付けて説明する。</p>	<p>読 チュニジアの家のつくりについて文章や絵などから読み取った情報を、筆者の説明の観点をもとに整理することができる。(ワークシート)</p>
二 5	<p>■セネガルの家のつくりについて、筆者の説明の観点に沿って整理することができる。</p> <p>①セネガルの家のつくりの工夫について、文章や写真・絵から読み取る。</p> <p>②セネガルの家のつくりに関する言葉を、筆者の説明の観点に沿って図に整理する。</p> <p>③まとめた図をもとに、理由を表す言葉を用いて、読み取ったことを関連付けて説明する。</p> 	<p>読 セネガルの家のつくりについて文章や絵などから読み取った情報を、筆者の説明の観点をもとに整理することができる。(ワークシート)</p> <p>読み取った情報を筆者の説明の観点に沿って整理できるようにしたワークシート。</p>
二 6	<p>■三つの国のつくりについて、筆者の説明の観点との関係を確認することができる。</p> <p>①三つの国のつくりについて整理し、表にまとめる。</p> <p>②表を項目ごとに見て、共通点や相違点を考える。</p> <p>③表をもとに、筆者の説明の観点との関係を確認し、考えを発表する。</p> <p>④表にまとめる良さについて考える。</p> 	<p>読 筆者の説明の観点と三つの国のつくりから、考えと事例の関係を理解することができる。(発言・ノート)</p> <p>3つの事例を比べるために表に整理する。</p>

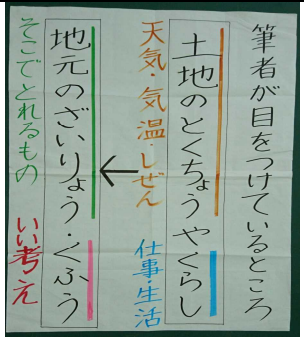

	7	<p>■教材文が、冒頭の導入部分と三つの具体例から組み立てられていることを捉えることができる。</p> <p>①文章の組み立てについて整理する。</p> <p>②教材文の特徴について気づいたことを発表する。</p> <p>③説明的文章には考えと事例の関係があることを確かめる。</p>	<p>読 文章全体の構成を理解することができる。</p> <p>(発言・ノート)</p>
三 次 本 時	8	<p>■筆者の考えをもとに、武富島の家のつくりに関する情報を表に図に整理して、家のつくりの工夫について自分の考えを書くことができる。</p> <p>①竹富島の家のつくりの工夫について、教科書の文や写真から考えたことを発表する。</p> <p>②何について説明された事柄かを考え、取り出した情報を表に整理する。</p> <p>③まとめた表をもとに、竹富島の家のつくりの工夫について自分が考えたことを「家の紹介カード」に書く。</p>	<p>書 日本のお家のつくりについての自分の考えを、理由とともに書いている。</p> <p>(発言・ワークシート)</p>  <p>写真などを提示し、教師が適宜情報を補う。</p> 
	9	<p>■筆者の考えをもとに、白川郷の家のつくりに関する情報を図に整理して、家のつくりの工夫について自分の考えを書くことができる。</p> <p>①白川郷の家のつくりの工夫について、教科書の文や写真から考えたことを発表する。</p> <p>②何について説明された事柄かを考え、取り出した情報を図に整理する。</p> <p>③まとめた図をもとに、白川郷の家のつくりの工夫について自分が考えたことを「家の紹介カード」に書く。</p>	<p>書 日本のお家のつくりについての自分の考えを、理由とともに書いている。</p> <p>(発言・ワークシート)</p>
	10	<p>■日本の家について考えたことを説明し合う。</p> <p>①グループになって、まとめた図をもとに、自分の考えたことを説明する。自分の考えと同じところ、違うところを比べながら聞く。</p> <p>②ひと通り説明し合ったら、「家の紹介カード」を交換して読み合う。</p> <p>③相手の文章に対する感想を書く。</p>	<p>読 日本のお家のつくりについて考えたことを交流し、互いの考え方や感じ方に違いに気づいている。</p> <p>(行動・ノート・感想)</p>
	11	<p>■単元の学習をふり返ることができる。</p> <p>①筆者の伝えなかったことについて考える。</p> <p>②「言葉の力」を参考に、図や表に整理して読み取ることの大切を確かめる。</p> <p>③身に付いたことやわかったことをふり返りに書いて、まとめをする。</p>	<p>読 単元をふり返り、学習したことを、今後の学習に生かそうとすることができる。</p> <p>(発言・ノート・感想)</p>

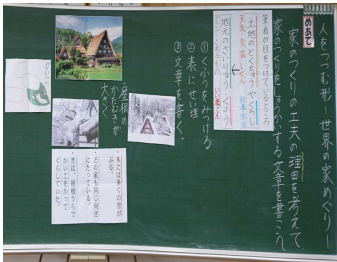
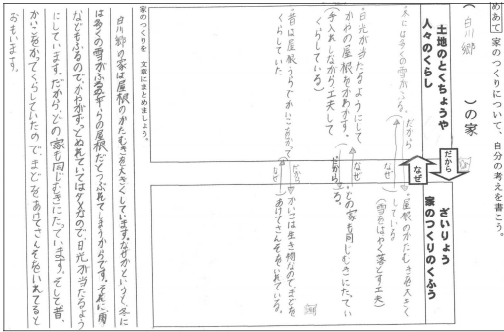
5 本時の指導（第9時/全11時間）

(1) 本時のねらい

筆者の考えをもとに、白川郷の家のつくりに関する情報を読み取って表に整理し、家のつくりの工夫について自分の考えを書くことができる。

(2) 本時の展開

	主な学習活動・発問	○教師の支援 ◎留意点 C 児童の反応	□検証の視点
導 入 5 分	1. 前時までをふり返る。	○読み取ったことを表に整理することで、筆者の考えを確かめたことを確認する。	
	2. めあてを確かめる。	○前時に児童が書いた「武富島の家しょうかいカード」を見せて、説明の観点を確かめる。	
	<p>めあて 筆者の考えをもとに、白川郷の家のつくりの工夫の理由を考え、文章にまとめよう。</p> <p>「どうしたら、文章にまとめることができるかな。」</p>	○家のつくりの工夫に関する情報を見つけて図に整理すること、まとめた図をもとに文章を書くことを確認する。	
	3. 二つの家のつくりを比べ、気づいたことを話し合う。 「白川郷の写真から、家のつくりについてどんなことがわかるかな？」	<p>○写真からわかる情報を発表する。</p> <p>C 「家が山に囲まれているよ。」</p> <p>C 「屋根のかたむきが大きいな。」</p> <p>C 「家の前に田んぼがあるよ。」</p>	

展 開 35 分	<p>4. 文と写真の情報を結びつけ、家のつくりの工夫の理由について考える。 (自力→ペア)</p> <p>(1) 「見つけた家のつくりについて、なぜ、そうなっているのか考えましょう。」</p> <p>(2) 「考えたことを、ペアで話し合しましょう。」</p> <p>5. 家のつくりについて読み取った情報や、考えた事柄を図に整理する。</p>	<p>○世界地図を用意し、位置の違いからそれぞれが暑い地方と寒い地方であることを補足する。その他、教科書では足りない情報を補足説明する。</p> <p>○理由を表す言葉を使って、情報を関係づけて考えさせる。 C 「冬には多くの雪がふる。<u>だから</u>…」 C 「どの家も同じ向きに建っている。<u>なぜなら</u>…」</p> <p>◎補足説明や補助発問をして、できるだけ児童に工夫の理由を捉えさせる。</p> <p>○読み取った情報を、筆者の説明の観点ごとにまとめさせる。</p>	<p>検証の視点1</p> <p>・図を用いることで、何について書かれた情報かを考えて読みとろうとしているか。(発言・行動観察)</p>
	 <p>6. 図をもとに、白川郷の家のつくりの工夫について、自分が考えたことを書く。</p>	 <p>○図に整理した「家のつくりの工夫」に関する情報と、「土地の特徴や人々のくらし」に関する情報を、理由を表す言葉を用いて関係づけて書くようにさせる。 ○写真から読み取った情報も書くようにさせる。</p>	<p>検証の視点2</p> <p>・図を用いることで、読みとった情報を分類し、整理することができたか。(発言・ワークシート)</p>
ま と め 5 分	<p>7. 学習のまとめとふり返り</p> <p>まとめ ・文章や写真からわかったことを図に整理して、理由を表す言葉でつなぐと、日本の家のつくりの工夫を文章に書くことができる。</p>		<p>検証の視点3</p> <p>・整理した図を用いることで、家のつくりについて自分の考えを書くことができたか。(発言・ワークシート)</p>

(3) 本時の評価

◇ 日本の家のつくりについて、自分の考えを理由とともに書くことができる。【書く】

V 研究の結果と考察

1 研究仮説の検証

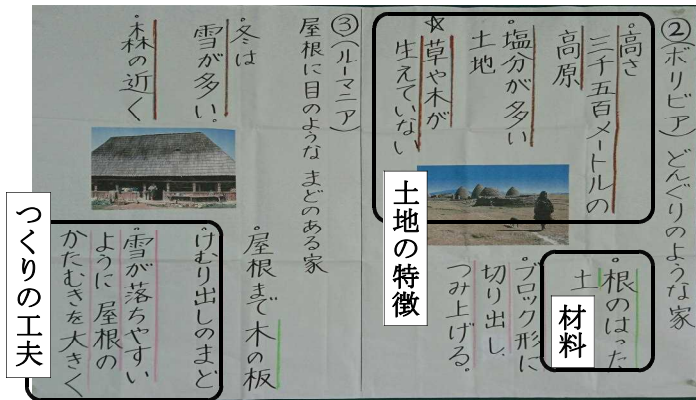
研究仮説の検証は、事前・事後アンケート、ノートやワークシートの記述、授業観察をもとに行う。

(1) 情報を整理しながら文章を理解することができたか

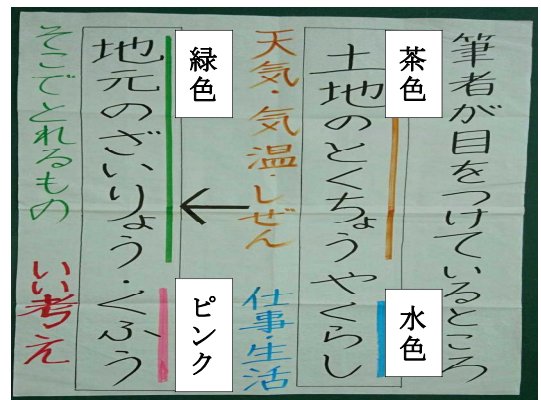
① 図に整理しながら読むことについて

文章を理解するためには、観点を明確にして分類することで情報を整理することが重要である。本単元で世界の家のつくりについて読んだり考えたりするためには、「土地の特徴」、「人々のくらし」、「地元の材料」、「家のつくりの工夫」の4つの観点で情報を整理することが必要になる。

そこで、第2時では、説明文前半に提示された2つの事例から、筆者の説明の観点を読み取らせた。資料3のように、家のつくりの工夫に関する言葉や文を同じ事柄どうしでまとめて見せることで、児童は筆者の説明の観点を読み取ることができた。そして、資料4のように筆者の説明の観点を4色で色分けして提示し、教材文を読む際に4色を使いわけて、大事な言葉や文に線を引くよう指導した。すると、児童は教材文の中から家のつくりに関する言葉や文を見つけて教科書の文章に線を引き、4つの観点で情報を分類することができた。



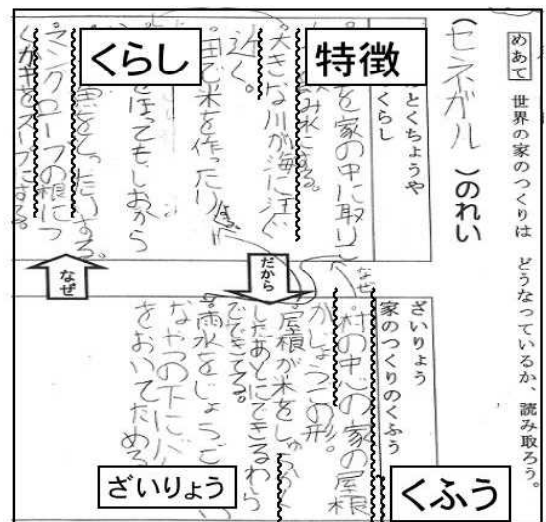
資料3 筆者の説明の観点を読み取る活動 (第2時)



資料4 筆者の説明の観点を示した掲示物

次に、読み取ったことをわかりやすく整理するためには、同じ事柄どうしをまとめるとよいことに気づかせ、図を用いて整理する活動へとつなげた。

本单元の中で、文章や絵、写真から読み取った情報を図で整理する活動は、第二次の中で3回ある。しかし、児童にとって初めての学習内容であるため、1回目は読み取った内容を教師とともに図に書き入れて整理した。2回目は一部を教師とともに図で整理し、残りの情報については一人一人が絵や脚注などから読み取って図で整理した。3回目は自分の力で読み取ったことを整理させた。児童は、資料5のように家のつくりについて考えるために必要な4つの情報を図に書き入れることができるようになった。表6のように、土地の特徴、人々のくらし、地元の材料、家のつくりの工夫のうち、4つの観点の情報を分類して図に書き入れた児童が27人中24人、3観点で分類できた児童が3人いたことから、図を用いることは観点を明確にでき、情報を整理しながら読むことに効果があったと考える。



資料5 図に整理して読む活動 (3回目)

表6 説明の観点をもとに情報をいくつ整理することができたか (図に整理して読む活動 3回目)

観点の数	4観点	3観点	2観点	1観点	なし
人数	24人	3人	0人	0人	0人

② 表に整理しながら読むことについて

3つ国の事例について個別に図に整理しながら読む活動を行った後に、3つの国の事例を表にまとめ、比較・検討する活動を行った(資料6)。児童は表を縦に見たり横に見たりしながら、国ごとに具体例は違ってもどの国の家のつくりの工夫も筆者の説明の観点と一致すること、事例があると筆者の考えがわかりやすくなることを理解できた。このことから、第3学年の児童にとって、情報整理の方法を、図の活用から表の活用へつなげたことは、効果があったと考える。

事例3	事例2	事例1	土地の特徴	人々のくらし	地元の材料	家のつくりの工夫
大きな川が海に注ぐ所の近く おのほらい水	夏五十度近く 冬、れい度下 二十七八度	大草原	大草原	羊や馬を ほうぼく	木のほね組み	雨水を家の中に取りこむ 屋根が じょうごの形
田で米を作る 魚や貝をとる	地面の土 しっくい	馬ぶんおんる	羊の毛	羊の毛	羊の毛	雨水を家の中に取りこむ 屋根が じょうごの形
カキの殻 まき(はしら)	地面の土 しっくい	馬ぶんおんる	羊の毛	羊の毛	羊の毛	雨水を家の中に取りこむ 屋根が じょうごの形
カキの殻 まき(はしら)	地面の土 しっくい	馬ぶんおんる	羊の毛	羊の毛	羊の毛	雨水を家の中に取りこむ 屋根が じょうごの形

資料6 表にまとめる活動

(2) 情報を整理して自分の考えを表現できたか

本研究では、「土地の特徴や人々の暮らし」と「地元の材料と家のつくりの工夫」に分類・整理した情報を関係づけて文章を書くことで、読み取った内容を表現した。資料7のように、児童は関係づけたい情報を矢印でつなぎ、情報と情報の因果関係を視覚的に捉えていた。そして、「なぜなら」「だから」などの理由を表す言葉を使って自分の考えを書き、読み取った内容を表現した。

1月 18日
めあて 世界の家のつくりは どうなっているか、読み取ろう。

(セネガル)のれい

土地のとくちようや
人々のくらし

大きな川が海に注ぐ所の近く
田で米を作。川で魚が貝をとる
いどをほてもしふからい水しか
出ない

関係づけたい情報同
士を矢印でつないでい
る。

家のつくりを 文章にまとめましょう。

セネガルの家は、大きな川が海に注ぐ所の近くにありま。だから、いどをほ
ても、しおからい水しか出ません。だから、村中心の家の屋根は、いどのような形
をしていて、雨水を家の中に取りこんで飲水として利用するのです。

屋根のつくりは、米を作でその作。た米をいどかくしたあとにできる
ちらを、使って、屋根を作ります。そのあとに、マングローブのみきで、屋根を
ささげます。

なぜ

家のつくりのくふう
村の中心の家の屋根は、いどこのよ
うな形
雨水を家の中に取りこんで飲水
水として利用する
米をいどかくしたあとにできる
ちらを、使って、屋根を作る
マングローブのみきで、屋根を
ささげます

だから

ざいりよう

図に整理した情報を関係づけ
て、文章を書くことができました。

資料7 情報と情報とを関係づけて書いた児童のワークシートの例

児童が読み取ったことを表現した文章の評価を表7に示した。情報を関係づけて複数の文を書いた児童が65%おり、それらの児童は「土地の特徴」「人々の暮らし」「地元の材料」「つくりの工夫」から3つまたは4つの観点で家のつくりについてまとめ、教材文の内容と整合した文章を書くことができた。また、1文で家のつくりを書いた児童は21%であった。文量は少ないが情報と情報の因果関係を捉えて文を書くことができた。

表7 読み取ったことを表現した文章の評価

	評価規準	割合(29名中)
A	・家のつくりについて、図に整理した情報を関係づけて複数の文を書いている。	65% (19名)
B	・家のつくりについて、図に整理した情報を関係づけて文を書いている。	21% (6名)
C	・図に整理した情報を関係づけた文を書いていない。	14% (4名)

児童の中には、情報と情報の因果関係が成立していないことに気づき、文章を書き直す様子もみられた。このように、図を用いることは、情報と情報の関係を捉えやすくし、児童が読み取ったことを書いて表現できるようにするために効果があったと考える。さらに、書いた文章の内容が教材文の内容と整合しているかどうかで、児童の読みを確かめることもできたと考える。

読み取ったことを表現できなかった14%の児童については、図の中に情報を整理して書くことはできているが、その情報を使わずに文章を書いた児童がいたので、文章化するときの手順などをわかりやすくする手立てが必要であった。また、情報と情報の因果関係が成り立たず教材文の内容と整合しない文章を書いた児童がいたことから、教材文を読んで確かめさせるなどの個別の指導の手立ても必要だったと考える。

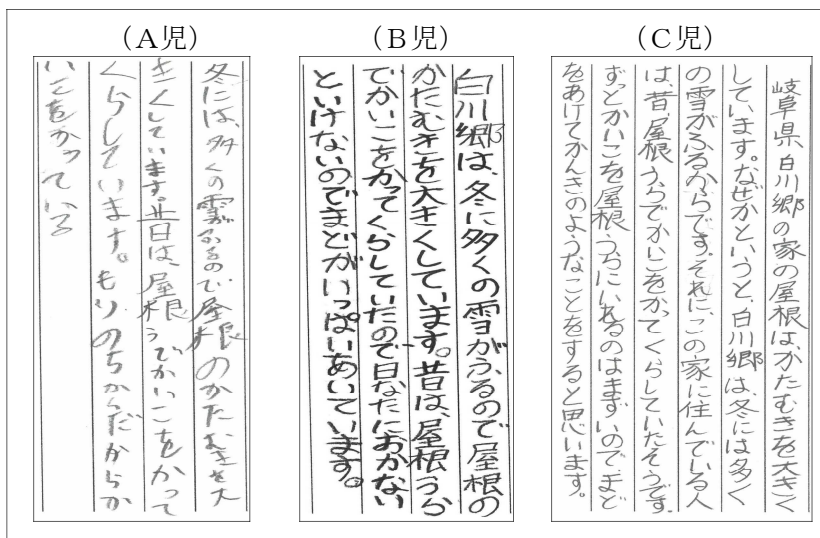
(3) 説明的な文章を「正確に理解」する資質・能力を育むことができたか

本単元の第三次では、筆者の考えをもとに、日本の家のつくりの工夫とその理由を考える活動を行った。第二次が文章の内容を理解するための活動であったのに対し、第三次は文章を読んで理解したことをもとに考えをもつ活動であった。

第9時で取り扱う「白川郷の家（岐阜県）」は児童にとってあまりなじみがない情報である。そこで前時までの文章や写真を関連させて情報を整理したことを生かし、「土地の特徴」、「地元の材料」、「家のつくりの工夫」の観点で文章や写真から家のつくりに関する情報を採り、図に整理する活動を設定した。そして、資料の中の文章と写真の情報を関連付けて、家のつくりの工夫について考えた。資料8は、その際に提示した資料である。児童は、資料8の文章と写真から情報を取り出し関連させて資料9のような短い文章にまとめることができた。同じ資料をもとにして家のつくりについて考えを書いたが、どの情報に着目するかによって、関連させる情報が一人ひとり異なり、多様な考えを出し合うことができた。



資料8 教科書にある白川郷の家に



資料9 児童が書いた文章

表8 考えたことを表現した文章の評価

	評価規準	割合(29名中)
A	・家のつくりについて、図に整理した情報を関係づけて複数の文を書いている。	66% (19名)
B	・家のつくりについて、図に整理した情報を関係づけて文を書いている。	31% (9名)
C	・図に整理した情報を関係づけた文を書いていない。	3% (1名)

表8は、第9時の評価である。図に整理した情報を関係付けて文を書くことについて、A・B評価となった児童が、学級の97%となった。この結果から、児童は、筆者の考えと事例をつなげて読むこと、筆者の説明の観点に沿って家のつくりの工夫に関する言葉や文を見つけて図に整理することができるようになったと推察できる。この後、児童は身に付いた力を生かして、日本の家のつくりの工夫についても考えることができるようになった。このことは、「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること」、「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること」、「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをもつこと」など、第3学年における「読むこと」の資質・能力が高まった姿と捉えたい。

従って、「情報の扱い方」を関連させた指導を行うことで、児童に第3学年の「読むこと」の事項を身に付けさせることができ、説明的な文章を「正確に理解」する資質・能力を育成を図ることができたと判断する。

(4) 児童の意識の変容

事後の児童アンケートで、「わかったことを図に整理することができる」と自己評価した児童が40%から78%となった(図1)。また、「文章や絵に様々なことが書いてあるとき、だいたいなことをわかりやすくまとめるにはどうするか」の質問に対して、児童が「図に整理する」「大切な文を見つけて整理する」「特徴、くらし、材料、工夫を分ければいい」と回答していたことから、情報を整理する際に、図を用いて分類するよさに気づいたと考える。

さらに、「説明する文章を書くことができる」については50%であった数値が85%に上昇しており、このことから説明する文章を書くことに対する自己評価が高まったことがわかる(図2)。「家のつくりを紹介する文章はどうやったら書けたか」について質問すると、「教科書の文や絵をみて、それを図にまとめて文をつくる」「図にまとめたことを『だから』『なぜ』を使って書く」などと回答していた。このことから、文章や写真などの情報を関係づけることや図に整理した情報同士を関係づけることが、文章を理解することや考えをもつための知識及び技能として役立つことを、児童が実感できたと考える。

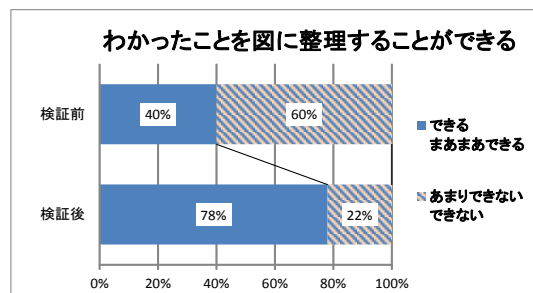


図1 図に整理すること (事前・事後)

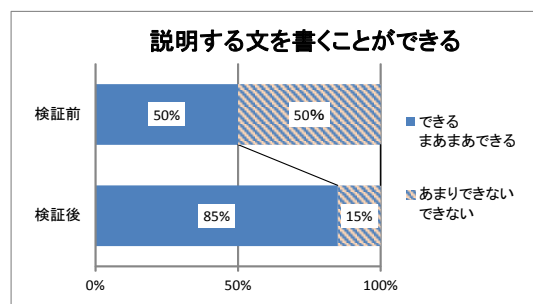


図2 考えを書くこと (事前・事後)

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 「情報の扱い方」を「読むこと」に関連させて指導したことで、児童が情報を整理したり、情報同士を関係づけて読んだり考えたりすることができ、説明的な文章を「正確に理解する」資質・能力の育成につながった。
- (2) 「なぜなら」「だから」などの理由を表す言葉をもとに読み取った情報を関係づけて文章化することが、児童の教材文の読みを確かめることにつながり、児童は文章をより正確に理解できるようになった。

2 今後の課題

- (1) 新学習指導要領に沿った評価規準の設定について研究し、指導と評価の一体化を図った指導ができるようにする。
- (2) 「情報の扱い方」についての指導であるため、児童の思考に沿った掲示資料の出し方や、板書を工夫する。

〈主な参考文献〉

- | | | | |
|---------------|--------------------------------|--------|-------|
| 文部科学省 | 『小学校学習指導要領解説編 国語編』 | 日本文教出版 | 2018年 |
| 吉田裕久・水戸部修治 編著 | 『平成29年版 小学校 新学習指導要領ポイント総整理 国語』 | 東洋館出版者 | 2017年 |
| 白石範孝 編著 | 『白石流国語授業授業シリーズ2 説明文の授業』 | 東洋館出版者 | 2015年 |